

2019～2022 年度 国際ロータリーのテーマ

# ロータリーは世界をつなぐ



マーク・ダニエル・マローニー

大島 浩輔

2019～2020 年度  
国際ロータリー会長

2019～2020 年度  
第 2670 地区ガバナー

小松島ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日 [12:30～13:30]

例会場 菊寿殿 おがわ 小松島市小松島町字外開 7-1

TEL:0885-32-0205

事務局 小松島市金磯町 10-19 TEL:0885-33-1211

2020 年 2 月 7 日

## 第 3339 回 例会記録

会員総数	25 名
出席会員	20 名
本日出席率	80.0 %
前回出席率	88.0 %

**会長報告** (木村 幹男) ・新型コロナウイルスのニュースが世間を騒がしております。留意しましょう。  
 ・英国では、全ての車を電気自動車にするとのことのようなようです。  
 ・正木会員の異動に伴い、その後任の笹尾啓一さんがお出でしております。  
 正木会員が後任の笹尾さんを紹介、笹尾さんの挨拶がありました。

**幹事報告** (芝 敏廣) ・山下親睦研鑽委員長：今月の誕生日、結婚記念日を迎える会員紹介。  
 誕生日：葛原・牧野谷会員、結婚記念日：木村・正木会員  
 3/28 に、観桜会を夜間移動例会として計画しています。  
 ・阿南中央 RC より、例会場のコートベールゴルフ場が阿南市非難指定箇所認定され、その記念事業として象の像を製作、名付け親を募集中とのこと。  
 ・自動車だけでなく、船舶でも電化の時代ですが、価額的に相当高額です。

**委員会報告** ・地区研修協議会の出席者の確認→担当する会員は全員参加。  
 ・葛原カウンセラー：バン奨学生が、ホーチミンに 6 年ぶりに帰国されるとのことなので、餞別の盆回しをお願いします。(¥22k)  
 ・松下ロータリー財団委員長：財団補助事業(外開川の浄化)に松校・松西校生が参加しており、新聞でも紹介されました。

**卓話** 葛原会員“近頃、読んでいるもの、見ているもの”



昨年の夏頃から読む本が変わりました。それは、週刊ポストが「韓国なんて要らない」という特集記事を書き、ポストは謝罪文を出し、作家の何人もがポストを発行している小学館の仕事はしないと言う人が現れてからです。

これを読んで、何の問題があるの？ 読んだけど問題なしと思った。“情弱”という言葉を知っていますか？ それまでは、新聞は朝日、雑誌は文藝春秋を読み、あとはテレビ・ラジオが情報源であった私のような“情報資源”に満足にアクセスできない人や、情報を十分に活用できない人を指す俗称です。→コンピューターやインターネットが発達・普及している現在の高度情報化社会においては、得られる情報の量や質の差が社会的・経済的な格差を生みやすい。この格差において不利な側に位置する人が“情弱”と呼ばれます。

“情弱ではいかん”ちゅうことで、昨夏娘にツイッターの書き込み方を教えて貰い、ついでに投稿者のそれを読むことにした。何回か書き込みもしたが、何の反応もなし→書くのは止めにした。ユーチューブも見まくりで“虎の門ニュース”、“文化人放送局”をよく見えています。加藤清隆、有本香、石平、上念司、百田尚樹、石橋文登、藤井厳喜、等が出ています。ユーチューブで高知出身の門田隆将が「韓国民の未来を想うと心が痛むが、RWCの日本

# KOMATSUSHIMA ROTARY CLUB WEEKLY



-スコットランド戦のように気合で頑張れば、世界と伍して全ての分野で戦える」と言っている。「門田隆将」が、高知での RC 地区大会に来ることを期待しています。

学生時代は朝日ジャーナルや本多勝一を読んどっただけで、最近読むのは“産経新聞”少し前まではイヤな新聞だったが、今はこの執筆陣が大のお気に入りになっています。ツイッターやYouTubeを見たりしている内に、“Hanada”、“Will”、“宝島”を知るところとなりました。

また、文藝春秋 2 月号の“「政界の風雲児」山本太郎”も、Hanada の“高橋洋一の「山本太郎の正体」”も読みました。→ この文藝春秋と Hanada の特集について、それぞれの主張と相違点を詳細に説明されました。

※説明された雑誌等について net で調べたことを紹介しておきます。(週報担当者)

ニコニコ箱 正木、木村、葛原 会員

理事会報告 ・正木会員と交代する“笹尾啓一”君の入会について満場一致で承認されました。  
 ・3/27 例会は、3/29(土)に夜間移動例会・家族会としてマリンパレットで行うことが承認されました。

## ※ 卓話で紹介された出版物等の概要 (Wikipedia より)

	月刊 Hanada	月刊 Will	宝島	産経新聞・正論
ジャンル	保守論壇	保守論壇		親米・反共を肯定
刊行頻度	月刊	月刊	月刊	新聞・月間
出版社	飛鳥新社	ワック・マガジズ	晶文社・JICC 出版局・宝島社	産業経済新聞社
編集長	花田紀凱(2016・4-現在)	立林昭彦(2016-)	富樫 生	正論:田北真樹子
刊行期間	2016・4-現在	2004・11-現在	1973・7-2015・8	新聞:1933・6・20-
特記事項	2016・6 月号創刊	2005・1 月号創刊号		正論:1973・11-

### 【月刊 Hanada】

2016 年 3 月、月刊 Will の創刊時からの編集長である花田紀凱が発行元ワック・マガジズの社長である鈴木隆一との対立から同社を退職、花田の下で編集及び DTP を担当していたスタッフを含め編集部ごと退社し、飛鳥新社へ移籍。同年 4 月 26 日の 6 月号から創刊開始し、コラム「あっぱれ!築地をどり」を執筆していた花田の文藝春秋時代の元部下である勝谷誠彦以外ほとんどの執筆陣が「Hanada」へ移った。その後、勝谷も、花田からの移籍前の執筆依頼の原稿を執筆した後に、花田から移籍後の原稿を依頼され、遅ればせながら「Hanada」へ移籍した。

### 【月刊 Will】

月刊 Will(マンスリーウィル)は、ワックが発行する、日本の月刊誌である。2004 年(平成 16 年)11 月創刊。「オトナのマンスリー・マガジン」を称する。

### 【宝島】

『宝島』は、宝島社から発行されていた看板雑誌。休刊時点では「タブーに斬り込む知的探求マガジン」というキャッチコピーの下、アングラ情報を含む情報誌となっていた。休刊時編集長は富樫生。1973 年 7 月 10 日に晶文社より『WonderLand(ワンダーランド)』として創刊。1970 年代のサブカル文化の一翼を担った。休刊に至るまでに何度もの雑誌自体のコンセプトの変更(リニューアル)を経た。創刊時の誌名『WonderLand』は、休刊に至るまで同誌の英題として使われていた。

### 【産経新聞 正論】

産経新聞は、産業経済新聞社が発行する日本の新聞。産業経済新聞社はフジテレビジョンやニッポン放送、ポニーキャニオンなどとともにフジサンケイグループに属する。

大阪新聞の僚紙である日本工業新聞(1933 年<昭和 8 年>6 月 20 日創刊)を前身とし、時事新報の流れを汲む。キャッチフレーズは「モノをいう新聞」。

『正論』は、産業経済新聞社が発行している月刊誌。1973 年 11 月創刊。また産経新聞でも同名のオピニオン欄が連載されている。現在の編集長は田北真樹子。

### 【Hanada 編集長 花田紀凱(はなだ かずよし、1942 年 9 月 13 日生)】

66 年文藝春秋入社。88 年『週刊文春』編集長に就任。6 年間の在任中数々のスクープをものにし、総合週刊誌のトップに。94 年『マルコポーロ』編集長に就任。低迷していた同誌部数を 5 倍に伸ばしたが、95 年「ナチガス室はなかった」の記事が問題となり辞任、1 年後に退社。以後『uno!』『メンズウォーカー』『編集会議』『W!LL』などの編集長を歴任。2016 年 4 月より『月刊 Hanada』編集長。テレビやラジオのコメンテーターとしても活躍。産経新聞コラム「週刊誌ウォッチング」、夕刊フジコラム「天下の暴論」はファンも多い。好きなものは猫とコスモス。